

【第一弾】 神山威氏の講演内容の誤りについて (後編)

神山威氏は、二〇一四年六月十八日、韓国・釜山で開催されたUCI(別名・郭グループ)での集会において講演をし、その後も韓国各地での講演会で、天一国経典『天聖經』の批判、真のお母様に対する批判、および後継者問題などについて自説を語り、統一教会員の一体化を損ねる分裂行動をしました。神山氏はそれにとどまらず、日本でも同年九月二十一日に東京、同二十三日に名古屋、同二十六日に福岡で講演会を行い、同様の批判を繰り返し述べ、教会内部に混乱を引き起こさせる分裂行動を取っています。

神山氏の講演内容には多くの問題点がありますので、以下、その誤りを指摘いたします。皆様におかれましては、神山氏の主張の誤りについて理解を深めていただき、この問題の解決、および教会の一体化が促進されるようにご理解のほどよろしくお願いいたします。なお、誌面の都合上、文字数の制限があるため、より詳しくは「真の父母様宣布文サイト (http://trueparents.jp)」をらんぐださい。

(教会成長研究院)

注・本文中、神山氏の講演内容は「茶色」で、真の父母様のみ言は「青色」で色分けしています。

(3) 「伝統はただ一つ!」 「御言絶対主義」について

文にない言葉をカッコ付きで挿入して引用したみ言についてですが、このみ言は重要です。

前項で述べたように、神山氏が「八大教材・教本」という原

「伝統はただ一つ! 真のお父

世界(非原理)の中で苦悩している人たちではありません。

彼らは、統一教会以外の人を伝道し原理講義をして、文鮮明先生こそが再臨のメシヤである」と証しすることはありません。彼らは、真の父母様を根とする教会から祝福家庭を離反させることが天命だと思いつ込んでいるのです。

私たちは今、神山氏もこの「分派」の仲間入りをしてしまわれるのではないかと懸念しています。

ところで、分派活動をしているある人物は、終末には「羊と山羊に分かれる」と主張して、「分派」の必然性を説きます。しかし、真のお父様は次のように語っておられます。

「『先天時代』は、対立、闘争、相克、不和の時代でしたが、『後天時代』は、調和、協力、相応、和解、平和、統一の時代です。

様を中心として! 他の誰かの、どんな話にも影響されてはいけません。先生が教えた御言と先生の原理の御言以外には、どんな話にも従ってはならないのです。今、先生を中心として、お母様を立てました。先生が霊界に行ったならば、お母様を絶対中心として、絶対的に一つにならなければなりません。今、お母様が行く道は、お父様が今まで立てた御言と説教集を中心として、行かなければならないのです。他の言葉を述べるのを許しません。

今度、韓国においても、御言絶対主義をとることができるよう措置したのです。どのような御言も、第二の御言を許しません!」(『祝福』一九九五年夏季号、六八ページ)

「先生が教えた御言と先生の原理の御言以外には、どんな話にも従ってはならない」とありますが、既に論述してきたよう

(4) 「全て成した」(完成、完結、完了した)という宣言について

真の父母様は「真の父母」として完成され、神様の直接主管圏に入っておられます。二〇一一年四月二十四日、「天地人真の父母定着実体み言宣布宇宙大会」を韓国で開催され、その後、世界に向かって「天地人真の父母時代」が到来していることを宣布していかれました。

真のお父様は、この「天地人真の父母定着実体み言宣布宇宙大会」で、次のように語っておられます。

「すでに真の父母様ご夫妻は最終一体を成して、完成、完結、完了の基準で、全体、全般、全権、全能の時代を奉獻宣布されたのです。……人間始祖の墮落によって引き起こされた夜の神様、昼の神様、万王の王、そして、真の父母、このように四大代表王たちの歴史的な葛藤と闘

に、真のお母様は「御言絶対主義」を守るために、天一国憲法(教会法)第一章第三節第十四条の基本経典を編纂されました。

真のお母様は、真のお父様のみ言を整理され、初期の教会のように原理講義が絶えない教会になってほしいと願われ、神氏族的メシヤの推進を指示しておられます。

統一教会の指導層および信徒は、真のお父様が「先生が霊界に行ったならば、お母様を絶対中心として、絶対的に一つにならなければなりません」と指示されたごとく、お父様と「最終一体」となられたお母様を中心に、ビジョン二〇二〇に向かって邁進しています。

ところで、真のお父様の警告のみ言を破って「第二の御言」を述べているのは、霊的集団や「分派」です。

彼らの伝道対象は、サタン世界から解放・釈放された統一教会の祝福家庭であって、サタン

争も、ついに天地人真の父母様によって、完全に解決されました。万人が平等であり、万国が兄弟国になって、『ワン・ファミリー・アンダー・ゴッド』の世界が皆様の目の前から展開されています(『トゥデイズ・ワールド』ジャパン)二〇一一年七月一日号、二〇〇三三ページ)

さらに、真のお父様は「蕩滅復帰時代圏を抜け出し」、「神様と真の父母様を中心とした勝利圏の太平聖代だけが永遠に続くようになるでしょう」(同、二〇一一年一月号、一一ページ)

「私たちはすでに神様の直接主管圏時代に進入している」(同、二〇一〇年九月号、一三ページ)とまで語っておられます。

このように、基元節の前に、真の父母様は最終一体を成し遂げられ、「完成、完結、完了」したと言われ、天地人真の父母様時代が到来しています。

そして、真のお父様は、蕩滅復帰時代圏を抜け出し、全てを「成し遂げた」(完成、完結、完了した)と宣言され、「再臨のメシヤとしての使命」を全うされたのです。

そして、真のお父様は、内的で実質的な三度目の結婚式である「最終一体を成し遂げ」(天一国経典『天聖經』一四五〇ページ)られ、基元節「聖酒」まで準備してから、聖和しておられるのです。

ところが、神山氏は、基元節の前に、真のお父様が聖和されたことを自己流に解釈し、それを「失敗した」として次のように述べています。

「なぜ? お父様は基元節を目前にして聖和されたのか。どんな思いで基元節を待っていたのか分かります? ……」

ちょうどモーセが、カナンの地を目前にして、六十万の民を率いてカナンの地に入らなければ

いけないのに、それを目前にして入れなかった。お父様も、基元節という神の国の出発の日を目前にして、基元節を生き延び迎えることができなかった。そして霊界へ行かれた」

これは神山氏の主観的解釈にすぎません。この解釈を聞いてみると、真のお父様は最終一体を成せず、天国にも入れずに、モーセのように失敗したと言わなければならない。

また、神山氏は次のように述べます。

「ある人たちはこう言う。お父様は全てを成した。全てを成した。」

では、お父様が全てを成したというなら何を成したというのか。何を成したと言うのか?

真の家庭がどこにあるのか? ……それがどこにありますか! 私は正直に言う!

ある人たちは、真の家庭ある

真の父母様の三男の文顯進様の問題があったにせよ、滞りなく終わりました。

実体的な天一国創建だけは、確かにまだです。しかし、今や統一家の人々は、真のお母様を絶対中心としてビジョン二〇二〇を掲げ、一丸となってあらゆる活動を展開しています。

私たちは、真のお父様が、「万人が平等であり、万国が兄弟国になって、『ワン・ファミリー・アンダー・ゴッド』の世界が皆様の目の前から展開されています」と語っておられたみ言を、心に刻み込んでおかなければなりません。

(5) 「三代圏(顯進様)について

神山氏は、真のお父様の「真の相続者は誰か」という問題について、次のように述べます。

「その血統に、お父様の息遣いと神様の種がそこにつながっ

じやないかと。どこにあるの、どこに。ない! ない!」

真のお父様ご自身は、「全て成した」と語られました。しかも、「蕩滅復帰時代が終わり」、「すでに神様の直接主管圏時代に進入している」とまで公言しておられるのです。

ところが、神山氏は「完成、完結、完了した」と語られたお父様のみ言に対して不信しているのです。

そして、神山氏は、真のお父様がメシヤの使命を果たせず、混乱を残し、三度目の神様の結婚式を成せなかったとして、次のように述べます。

「お父様は再臨のメシヤです。ではメシヤとして何を残したのか、この地に?」

混乱だけを残していったのか? 今、教会は混乱しています。その混乱を残したのがメシヤの使命であり役割だったのか? ……」

鮮明先生「夫妻こそ、再臨のメシヤ、救世主、真の父母であって、直系の子女様によって代が何代変わっていくと、真の父母様が永遠に宇宙の中心だということですよ。」

いかなる真の子女様であって、そのかたが再臨のメシヤとなり、真の父母になることはありません。

また、神山氏は、「考えてみてください。私たちのお父様に對する不信が、神様の前に絶対服従できなかった私たちの信仰姿勢が、この結果を生みだしたと考えなければならぬと思いませんか?」と述べます。

誠にそのとおりであると思えます。しかし、この結果を生み出した原因は、真のお父様に對する不信だけでなく、真のお母様に對する不信もあるのです。そして、このお母様に對する不信は、お父様に對する不信でも

お父様が基元節を目前にして、モーセがカナンの地を目前にしてカナンに入れなかった。その基元節は、何をしなければならなかったのか。真の家庭がつくられなければならない。そして、神様の結婚式がなされなければならなかった。

お父様が蘇生、長成、完成、最後の神様の結婚式を、真のお父様がどんなにその時を待ったと思えます? 二〇一三年の一月十三日の基元節を……」

このように、基元節前に聖和された真のお父様が、「どんなに無念だったと思えますか?」と述べ、自分の主観的解釈を吹聴して回っています。

真のお父様は、内的・実質的な結婚式である「最終一体」を成し遂げられ、真の父母様として、「真の家庭」の四位基台を完成しておられます。三度目の結婚は成されたのです。そして、外的・実体的な「基元節」も、

あります。

神山氏は、現在の心境を次のように吐露しています。

「今まで私の長い年月の直接のアベルはお父様でした。真の父母様であるとともに、私のアベルでした。指示され報告する上司がいなくなりました。お父様が霊界に行かれたので、ちょうど糸が切れた風のようになりました」

心に隙間ができた時こそ、一番、信仰姿勢が問われる時です。真のお母様に仕えることができずに、分裂行動をすることが、真のお父様に對する不信と不服従を償うことであると考えるおられるのでしょうか。

真の父母様は、お二人ではなく一組です。したがって、真のお父様がお立てになった真のお母様に侍ることこそ、お父様に侍ることではないのでしょうか。